

プログラム
活動
レポート

「縫ぬいクラブ」～7月より活動再開！笑顔で元気に頑張ります！～



熊本地震により、活動を休止していた「縫ぬいクラブ」。ようやく、7月より活動再開できるようになりました。震災後、初めて会うメンバーも多く、お互いの無事を喜びあい、被災状況など確認しあい、大変だった避難生活を振り返り、互いに労をねぎらいながらも久しぶりの再会にとっても嬉しそうでした。しかし、中には避難生活を続けている方、村を離れて生活している方、施設に入った方も…。今までのように皆が揃うことは難しくなりましたが、参加できるメンバーで協力しあい、皆が戻れるまで今後も縫ぬいを盛り上げていこうと決意を新たに頑張っています。

プログラム
活動
レポート

元気もんウォーク「山の会」～みんなの声に答え、臨時的な活動再開！～

震災後、活動を休止していましたが、活動再開を待ち望む声が多く寄せられました。そこで本格的な再開は困難ですが、臨時的な計画を立てて6月より活動再開いたしました。

6月2日には「平治岳」に登り、15人が参加。快晴で空気は澄みわたり、ミヤマキリシマの赤紫色と青空のコントラストが最高でした。



7月6日には「親爺山」に登り、11人が参加しました。

暑い一日でしたが、登山道は森の中なので日差しが遮られ、風が心地よかったです。親爺山から障子岳への稜線は見晴らしがよく、途中バイケイソウ（梅蕙草）の大群落やB29墜落の慰霊碑など、自然と歴史の両面から感慨深いものがありました。障子岳からは360度の展望で、祖母・傾の稜線、阿蘇が見渡せました。全員無事下山。計画通り午後4時にあそ望の郷くぎのに帰り着きました。
 (山の会代表：矢野)



プログラム
活動
レポート

童謡唱歌教室 ～歌うことで元気になろう！～

童謡唱歌教室も震災後、4月の例会は実施できませんでしたが、メンバーからの「歌いたい！」という思いに講師も応え、5月の例会は会員宅で実施。メンバー他、避難所で知り合った方もお誘いし、10人程が参加。皆の無事に感謝し復興を願いながら、いつも以上に心を込めて歌いました。

6月の例会は、大雨により避難指示が発令、土砂災害も発生したため中止に。

7月の例会は、南阿蘇ケアサービス「有料老人ホームはなみずき」に出向き、入所者の方達約20人と一緒に歌いました。いつものように「ふるさと」からはじまり、「荒城の月」や「あめふり」、「あんたがたどこさ」など全



10曲を歌詞の意味やエピソードなど講師のお話を交えながら約1時間、入所者の方達も歌詞を手にし、大きな声で上手に楽しく、懐かしい情景を思い浮かべながら歌っていました。

「歌を聴くだけでなく、自分自身で歌うことが、なによりも活力になる！」と講師の小佐井浩子さん。この素晴らしい日本の文化が若い世代に伝わっていくことを祈っています。皆さんも、もう一度童謡を歌ってみませんか？どこでも喜んで出向きます！一緒に歌いましょう！

お問合せはクラブ事務局まで。